

幼稚園の活動（砂遊び等）と生活科の 指導計画の作成について（案）

－アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム－

棚倉町教育委員会子ども教育課

幼稚園の活動と小学校の生活科を中心に、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを以下のように構想する。

【構想の基本方針】

- 本町の幼稚園教育と小学校教育の共通点は、共にキャリア教育を推進し、「4つの基礎的・汎用的能力」育成しているという点である。**連携の柱に、「4つの基礎的・汎用的能力」を設定**し、園児・児童の資質・能力を継続して育成していく指導計画を作成する。
- 幼稚園教育において、**キャリア教育**を推進し、新しい時代に対応して、児童が**豊かな人生を切り拓き、持続可能な地域社会の創り手となる**ために必要な資質・能力が育成できるように、**砂遊びと遊びを通した外国語活動、ICTを使った活動**を無理なく経験させる必要がある。
- 小学校の**生活科の中に、砂遊びを主とする活動を設定**する。また、幼稚園児や支援学級との交流活動において、**砂遊びを通して交流を深める活動**が設定して生活科の目標を達成するような単元を構想し、幼稚園と小学校の円滑な接続を推進するようにする。

【砂遊び】

- 小学校の生活科の計画の中に、砂遊びを位置づける。
 - ・ 幼児期の教育から小学校のとの円滑な接続を図る観点から、**入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導(砂遊び)**を行う。
 - ・ **身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりして遊ぶ活動(砂遊び)**として設定する。(学習指導要領 第2章 第5節生活 第2各学年の目標及び内容 **2内容(6)**)
※砂は自然物であるので**2内容(5)**にも関係づけられる。
 - ・ **幼稚園との交流活動として、砂遊びを通して、自分が成長したことを実感する機会として活動を設定する。(同上(9))**
- 例えば、次のように位置づけることが考えられる。
 - ・ 生活科の学校探検の中に位置づけ、小学校にも砂場があり、活動の計画を立て遊ぶ。
 - ・ 幼小の交流活動において、砂遊びを定期的に取り入れ、実態に応じて交流し、自分たちの成長を実感する。
- その際の目標としては、次のようなものが考えられる。
 - ・ 遊びに浸り、没頭する遊び自体の面白さに気づく。(知識・技能)
 - ・ 遊びや遊びに使うものを、試行錯誤を繰り返しながら、工夫して作る。(思考力等)
 - ・ 力を合わせたり、約束を決めたりしながら遊び、みんなと遊ぶ楽しさを実感する。
 - ・ 友だちのよさや自分との違いを考え、相手の意見を尊重する態度を身に付ける。

(以上、学びに向かう力、人間性等の涵養)

【砂遊びの教育的価値】

従来、砂遊びは、図画工作科において造形活動として取り入れられてきた。しかし、資質・能力を意識することで様々な価値が生まれてくる。

- 幼稚園では、一定のねらいを持って砂遊びに取り組ませるのではなく、砂遊びを通して見られた子どものよさを教師が価値づけることが多い。ふだん表れない子どものよさや、子どもの学びの姿を発見することができる。
- 幼稚園での活動を生かすことができ、どの子も取り組みやすい。
- 子どもたちが自然と協力して活動するなど、子どもたちが協働しつながることができる。
- 集める、固める、高くする、掘る、水と混ぜるなど、活動一つ一つに試行錯誤が必ず伴い、子どもの思考力向上につながる。
- 学校において屋外での遊びを確保することで、コミュニケーション力を身に付けたり、体験的な学びを後から身に付けたりすることができる。
教師の側からも価値を見いだすことができる。
- 何度か繰り返すことにより、前回と違う子どもの姿に気づき、多面的、多角的に子どもを理解することができる。
- 子どもの見取りを教師主導ではなく、子どもの目線で考えるようになり、教師も教育環境の一部として、見守ることや待つことの大切さにも気づくことができる。

【遊びを通した外国語活動やICTを使った遊び】

- 幼稚園の遊びの中に、外国語活動やICTを活用した活動を計画する。
 - ・ 幼稚園における外国語活動
 - ・ ICTを活用した遊び
- 上記については、小学生との交流活動においても、計画して実施することができる。
新しい時代に必要な資質・能力とそれらの素地を養う活動を意図的に計画したい。
- 小学校低学年もタブレットが使えるようになることから、生活科での効果的な活用についても、研究と実践が必要になる。教育課程の編成にあたっては、それらの可能性も含めて十分に検討したい。
- アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムにおいては、幼稚園児と小学生の交流活動をどのように実施するかが重要なポイントになるであろう。園児と交流することで児童は自己の成長を実感し、園児は小学校に慣れることができる。
また、幼稚園や小学校の教師が、それぞれの教育活動を参観、体験することは、幼小の連携を進める上でも、キャリア教育を推進するためにも必要であると考え、

【結びに】

以上の活動を通して、幼稚園から小学校低学年の教育課程をつないで、小学校中学年以降から中学校卒業時まで、総合的な学習の時間で、**探究的な学習活動が効果的に行えるような資質・能力（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現ができる力）を育成し、総合的な学習の時間の目標を達成でき、キャリア発達を促すようにしたい。**